

ぱん
らんと

特集

東日本大震災復興
ボランテイアから学ぶ防災



災害に備えよう



みなさん、南海トラフにおけるマグニチュード8以上の巨大地震が今後30年以内に起きる確率が60～70%程度であることを知っていますか？非常持ち出し袋を用意する、避難経路を確認する等、地震に備え何か取り組んでいることはありますか？今回はらぱっと×きっかけバスで防災についてお送りします。きっかけバスは東日本大震災の際、実際に被災地に行き、支援活動を行った団体です。徳島に戻ってからも東北の商品の販売、勉強会の開催等、精力的に活動を続けています。そんなきっかけバスのメンバーに活動紹介や防災について学び、地震や災害に備えましょう！

編集：らぱっと編集部×きっかけバス

きっかけバスとは

東日本大震災から丸3年が経とうとする今、東北の人たちは「風化」と「風評」に苦しんでいます。その流れをなんとか止めたい。もう一度、日本中に復興の「旋風」を巻き起こしたい。そう考えた大学生たちが、47都道府県から1台ずつ、合計47台のボランティアバスで2000名が東北へ行きました。学生の春休みの時間を利用して全国約2000人の学生が東北へ向かいました。岩手、宮城、福島沿岸部を2泊4日で周ります。被災三県をそれぞれ周ることで、今回の被災の広域性とそれぞれの地域の被災状況、今の課題をきちんと見てまわりました。ボランティアを通じて復興に寄与し、現地の方の防災のお話を通じて、日頃の防災の重要性を学ぶことが狙いできっかけバス47は、学生と社会人の両方の参加で成り立ちます。お金はないけれど、時間に余裕がある学生はボランティアで復興に関わる。時間はないけれど、お金に余裕のある社会人は寄付で学生を支援する。それぞれの世代が自分が得意なところで復興に関わる、世代を超えた協力的プロジェクトです。



きっかけバス徳島

～築こう、新たな防災を今ここに～

KIKKAKE BUS



2月19日(水)

出発式(徳島阿波踊り空港)

羽田空港

バスで東北へ(車中泊)

バスの中ではきっかけバスに参加しようと思ったきっかけを話しました。

2月20日(木)

岩手県・陸前高田にてボランティア活動を実施

遺留品を探す作業をしました。土砂をすくって網のボウルに入れ、手洗いし、選別するという作業です。東北の凍える寒さの中、みんな黙々と作業に取り組みました。

2月21日(金)

前日から気仙沼へ移動し宿泊ホテルで釘子明さんのお話を聞く。

南町紫市場で市場の方と触れ合う

福島へ移動
南三陸さん商店街にて及川さんのお話を聞く。

夜は徳島メンバーで熱くダイアログ

2月22日(土)

若松醤油店の若松さんのお話

地域コーディネーターの押田さんのお話

防災プラザ訪問

徳島へ



一般社団法人「陸前高田被災地語り部」 くぎこ屋



「数分のうちに街が消えた。」「避難場所に指定されていた所にまで津波が来た。」私達は岩手県陸前高田市にて震災の語り部として活動を続ける釘子明さんのお話を伺った。釘子さんは自身の避難所生活から、食料の分配や安全・秩序の確保についての課題を語り、私達に各人の指定避難場所の備蓄を確認しておく重要性について訴えた。「あなた達は自らの避難場所を知っていますか？実際に行ったことはありますか？備蓄について知っていますか？手が拳がらないのはあなた達が心のどこかで震災は他人事だと思っている証拠です。」私は胸をしめつけられる思いがし、自分がいかに震災について無関心であったかを思いしらされた。「あなた達が私達と同じ目に会わないことが、震災により被災したすべての方の供養になるのです。」被災した方達の思いを無駄にしない為にも、私達は防災に対する意識を向上させなければならない。

伝えなければ
ならない

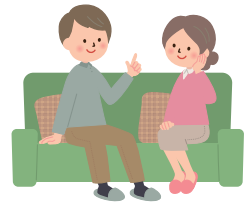
言葉 想い

南三陸さんさん商店街運営組合長 及川 善祐さん

南三陸さんさん商店街の元代表である、及川さんのお話はとても衝撃を受けました。「被災者である前に自分は商人である。商人たるもの、人に頼りきっているわけにはいけない！」という言葉が印象的で、若人である私達が圧倒されてしまうような気合溢れる人で、南三陸さんさん商店街が、日本のがんばる商店街 100 選に選ばれるのも納得でした。私達も、いざ被災者という立場に立ったとき、どうすれば町おこしが可能かなど、考えることができました。及川さんは「復興は私をはじめとした地元の人の方々との結束と意気込み、そして知恵の集結によって必ず成し遂げると自負している。そのプロセスを力強く歩んでいきたい！その姿が皆様に対する最大のご恩返しであり、多くの犠牲者に対する真の鎮魂である。」とおっしゃっていました。



私たちが現地で耳にした言葉の数々。震災を実際には経験していない私たちには知らないことばかりでした。伝えなければならない言葉・想いがそこにはあり、それらは知るべきことばかりでした。あなたの身近にいる大切なひとたちに伝えてください。



地域コーディネーター / 報徳庵 押田 一秀さん



「よそ者だから出来ることがある。」押田一秀さんはバスの中で私達にそう語った。押田さんは地域コーディネーターとして、現在もお福島の復興を支え産業の活性化に繋げる活動をしている。押田さん本人も東北出身というわけではなく、いわゆる“よそ者”であった。しかし、よそ者であるからこそ中立的で広い視野で見つめることができる、よそ者だからこそ復興への架け橋となれる、そう教えてくれた。

福島の人々は震災後、放射能による風評被害に苦しめられていた。もともと福島は果物が豊富で果物王国と呼ばれるほどであった。しかし、風評被害により売れないと判断した福島の人々は、努力したら売れるものまで諦めてしまっていた。そんな人々の背中を押し、福島の魅力に再度気付かせたのはよそ者の力であった。

福島県南相馬市 若松味噌醤油店 若松 真也さん

震災当時情報が全く入らず、鳴り響く音の正体は水素爆発であったことを後から知ったという。「無知ほど怖いものはない。」若松さんは声を大にして私達に言った。

原発事故の後、誰もが聞き慣れない言葉に怯えていたが、その怯えの正体についてはほとんどの人が何も知らなかったのだ。その後段々周囲から人が減り、駆け付けていた自衛隊もついには姿を消した。「命あるだけ幸せじゃないですか。」若松さんのその言葉は、とても前向きであると同時に私たちの心に強く響いた。「ずっと泣いているなんて悲しい、心の持ちようでも変われる。」とも語ってくれた。

「みんなが来てくれたこと絶対忘れないよ、ありがとう。」若松さんからのそんな素直な感謝の気持ちにすぐ胸が熱くなった。

別れ際、久々に家族と再会するのだと語る、若松さんの嬉しそうな顔が今でも忘れられない。



知りたい!

見たい!

行きたい!

東北 なんてこ!!

私たちが訪れた地以外にも東北には魅力がたくさんあります!!
ボランティアで行けなくても是非観光で一度行ってみたいはいかがでしょうか?



日本三景：松島（宮城）



やっぱり海鮮♡(宮城)



私のオススメ

宮城県は…

閉上というところですか。観光名所とかというよりは土地そのものに魅力を感じています。津波で大きな被害にあった閉上を訪れたとき、感じたのがなんだか徳島と似ているということ。地形や町全体の雰囲気でしょうか。実際見て自省した場所だからこき身近に感じてもらいたい。あの土地の強さと想いをいつかこの徳島でも震災が起こるきの前に感じてもらいたい。

(文：奥村貴子)



私のオススメ

岩手県は…

大槌町を紹介します。実は大槌町と徳島ちょっとした共通点があるんです。なんと…!大槌町にもひょうたん島があるんです。しかも、ビートたけしさん、鶴瓶さん、木村拓哉さんが出演しているCMにも使われたことがあるんですよ!他にも大槌町には、福幸きりり商店街やおらが大槌復興食堂など魅力的なスポットがたくさんです。是非一度訪れてみたいはいかがでしょうか?

(文：斎藤智恵)



奇跡の一本松（岩手）



うごく七夕まつり（岩手）



五色沼（福島）



復興屋台村気仙沼横丁（宮城）



大内宿（福島）



私のオススメ

福島県は…

なんといっても果物が美味しい!そこで是非お勧めしたいのが、フルーツライン。フルーツラインとは、福島市の西側にある約15kmにわたる福島県道5号線のこと。この区間には種類別の果物畑が広がり、買い物や果物狩りが一度にできちゃうんです!季節により果物の種類は異なるが、特におすすめなのが7月中旬~下旬にシーズンの桃!福島の桃はとっても甘くて大人気!是非福島の美味しい果物をお腹いっぱい食べてみてください。

(文：神田結奈)

さあ 今すぐ!! 防災



きっかけバスメンバーが厳選して選んだ非常用グッズ。これなら誰でも手に入ります。起こってからでは遅い!らぱっと片手にいざ調達!!

〈歯ブラシ〉



避難所生活を送る中で長期に渡り歯磨きをしないと肺炎になる恐れがあります。

〈スリッパ・サンダル〉



破片などで歩けなくなるのを防止する為に、枕元に常に置いて下さい。

〈ホイッスル〉



家が崩壊した際などに自分の声よりも確実に助けを呼ぶことができます。

〈ライター〉



薪などに着火することで寒さをしのぐことができます。

〈作業用手袋・軍手〉



救出、救助、搬送などの作業をする際に便利です

〈フロライト〉



定番アイテムですが、この商品のように手動であれば電池がなくなる心配がありません。

〈電池〉



災害時に懐中電灯やラジオの電池に役立つために必須です。

〈マスク〉



避難所生活を送る中でインフルエンザなど感染症を予防してくれます。

〈ウェットティッシュ〉



避難所生活で体を拭いたりお皿を拭いたりする際に便利です。

〈簡易トイレ〉



避難所におけるトイレの需要超過や健康衛生的にも簡易トイレは必要です。

〈缶詰〉



長期保存が可能で浸水の心配もなく、腹持ちも良いです。

〈飴〉



糖分は脳に満腹感を与え、また長期保存が可能な飴やチョコレートは非常食として優れています。

〈耳栓〉



避難所生活で子供や赤ちゃんの声を気にせず睡眠できます。

〈ラジオ〉



正しい情報を得る為に必須であり、この商品のように手動やソーラーであれば電池がなくなる心配がありません。

〈非常用保温アルミシート〉



身体が冷えないように、また動きものにしたり毛布代わりになります。

〈レインコート〉



雨対策だけでなく、防寒対策にもなります。

あなたはどこに逃げる？



避難所を知るのは当たり前ですが、そこにある備蓄品（食料、機材など）を知ること重要だと東北で教わりました。あなたはあなたの避難所そしてそこにある備蓄品を知っていますか？避難した後のことを考えるのも今後被災したときに生き残る知恵となります。



<p>1 城西</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 1200個 アルファ化米 2400個 保存水 3312本 毛布 1350枚 	<p>2 沖洲 (コミセン / 小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50/400個 アルファ化米 150/900個 保存水 192/960本 毛布 30/490枚 	<p>3 住吉城東・城東小・城東中 (コミセン / 小学校 / 中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50/1500/1200個 アルファ化米 200/2700/2400個 保存水 216/3600/2688本 毛布 30/730/1200枚 	<p>(調べてみよう) 私の避難所は、</p>	
<p>4 津田小</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 1600個 アルファ化米 3300個 保存水 3936本 毛布 1930枚 	<p>5 徳島中</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 1200個 アルファ化米 2100個 保存水 2448本 毛布 900枚 	<p>6 千松小</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 2000個 アルファ化米 3600個 保存水 5280本 毛布 1330枚 		<p>7 佐古 (コミセン / 小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50/1600個 アルファ化米 50/2400個 保存水 120/3600本 毛布 20/730枚
<p>9 助任小</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 800個 アルファ化米 1400個 保存水 960本 毛布 430枚 	<p>10 川内南小</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 300個 アルファ化米 1000個 保存水 1152本 毛布 550枚 	<p>11 徳島市立高校</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 1600個 アルファ化米 3000個 保存水 2400本 毛布 900枚 	<p>12 内町 (コミセン / 小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50/400個 アルファ化米 150/600個 保存水 168/672本 毛布 55/430枚 	<p>13 新町 (コミセン / 小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50/400個 アルファ化米 100/900個 保存水 144/5520本 毛布 25/2230枚
<p>14 渭北 (コミセン)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50個 アルファ化米 200個 保存水 240本 毛布 65枚 	<p>15 渭東 (コミセン)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50個 アルファ化米 200個 保存水 120本 毛布 25枚 	<p>16 福島小</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 800個 アルファ化米 1500個 保存水 1200本 毛布 730枚 	<p>17 東富田・西富田・富田小・富田中 (コミセン東 / コミセン西 / 小学校 / 中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> パン 50/50/500/1200個 アルファ化米 200/500/900/2400個 保存水 240/480/1104/2928本 毛布 10/210/730/600枚 	



最後まで読んでいただきありがとうございました。どうでしょう？自らの防災を見直す「きっかけ」となりましたか？私たちが今目指すべきことは、いざ震災が身に降り掛かってきたときに、「想定内」だったと言えるようにすることです。これを機に防災について少しでも興味を持ってくだされば幸いです。



ペケの 推しメン

このコーナーは…
私ペケが出会った
輝く先輩たちを紹介するコーナー

Person#04 小淵 香織

伝言板

長らくのご愛読誠にありがとうございました。
今回をもちまして、ペケの推しメンのコーナーは終了です。
次回からは、ゆうじろうの推しメンのコーナーが始まります。
またいつか皆さんとお会いできる事を心待ちにしております。



後輩に一言

色んな物を見て、色んな事を経験して、感じたものは本当の気持ちだからそれを大事にしてほしい！

今回は国際協力に積極的に挑戦する小淵香織さんを紹介します。国境なき医師団に憧れて医学部に入った小淵さん。大学1年生の時は、医者になるという強い意気込みを持っていたにも関わらず、まだ専門的なことが学べないことや、以前から行きたかったマザーテレサのボランティアツアーへの参加を親に反対されたことに不満を感じていました。そんな時、ネットで日本国際保健医療学会学生部会の勉強会の事を見つけ、参加することにしました。講義を受けたり、自分とは違った専門を持ちながら色々な経験をした学生と意見を交わしたりすることで、濃密な時間を過ごしました。実際に海外に行った人の意見と、海外に行つたことのない想像だけの自分の意見との差に気づき、さらに海外へ行きたいという想いが強くなりまし

た。2年生の春には念願だった、マザーテレサのボランティアツアーに行けることになったのですが、その時期に東日本大震災が起こりました。同じ国の人たちが困っている今、海外に行くのはおかしいと思い、ツアーに行くことを断念し、3年生の春に東北のボランティアツアーに参加しました。瓦礫の撤去作業などを行うなかで無力さを感じることもありましたが、ちゃんと事実を見て吸収することが大切だと気づきました。夏にはいよいよマザーテレサのボランティアツアーとしてインドの死を待つ人の家を訪れました。その日運ばれてきた人が次の日の朝には亡くなっていくというのを目の当たりにし、命の事、そして医学のことについて深く考えました。今まで想像しかでなかつた海外の現状を見て、自分の中に自分なりの考えが持てるようになったそうです。4年生

の時には、特定非営利活動法人TICOとの繋がりで、ザンビア共和国のある村を訪れました。その人たちは、日本とは違った非近代的な生活をしているのにも関わらず、皆が幸せそうに暮らしていました。日本には物が溢れていて豊かに見えるけれど、日本人はあまり幸せそうじゃないと思つたそうです。しかしながら、データとして病気が蔓延しているという事実を学んだ小淵さんは途上国の生活を尊重しながら、医療面で自分にできることを考えるようになりました。さらに5年の時にはネパールの学校保健教育のプロジェクトの立ち上げに関わるなど、自分をステップアップさせていきました。

4年生の時には日本国際保健医療学会学生部会の代表を、5年生の時にはTICO YOUTHの副代表を勤め上げた小淵さん。6年生になった現在も地域医療や文化人類学など様々なジャンルのことに興味を持ち、好奇心旺盛に活動されています。

おぶち かおり
小淵 香織

プロフィール

東京都出身

医学部医学科

国際保健医療学会学生部会元代表

TICO YOUTH 元副代表

ボランティア体験 Debut レポート

「ボランティアって何してるの？興味はあるけれど、何から始めたらいいかわからない…。」
そんな人たちに、初めて学外でのボランティア活動に参加した学生の声をお届けします。



工学部機械工学科1年

きくち みちひろ
菊池 道裕さん

これまでのボランティアのイメージ「堅そう、とっつきにくい」

徳島大学に入学する前は中高一貫校に通っており、当時は物理部に所属していました。物理部ではパソコンのプログラミングやゲームコントローラーの作成などをしていました。その頃、ボランティアには特に参加したことがなく、自分の中では漠然としたもので、とっつきにくく堅そうなイメージでした。ボランティアってどんなものだろうという興味は少し抱いていました。

キャリアプランでのイベント紹介が出发点

工学部・総合科学部1年の必修科目キャリアプランはほとんどの学生が知っていることでしょう。この授業時間の最初に宣伝があったことを機に『まけまけいっぱい MATCHING2014』というイベントを知りました。このイベントは、部活とは違ったかたちで、徳島県内でわくわくしながら活動する学生の団体紹介を行うものです。受講者全員に配られたチラシは、おしゃれで魅力的に感じ、ちょっと行ってみようかなという軽い気持ちで足を運びました。当日、会場の図書館には12団体の先輩方がブースを構え、私たちを迎えてくれました。私は、らぱっと編集部・新町カウントダウン(らぱっと vol.2 に掲載)・グリーンバード徳島の3団体の話を聞きました。ゴミ拾いなら気軽に参加できると思い、このイベントで出会ったグリーンバード徳島の活動に参加し始めました。

実際にグリーンバード徳島のゴミ拾い活動に参加して

イベントに参加後の5月半ば頃、グリーンバード徳島のゴミ拾い活動に初めて参加しました。この日は主要メンバーがあまり参加しておらず、1年生が多く参加していました。会ってすぐに初対面のメンバーと活動をしたので、最初はソワソワして、ぎこちない雰囲気もありました。運営の人たちのおかげで場が和んでいき、自分も参加メンバーと徐々に打ち解けていくことができました。それから、平日以外の活動日には毎回参加しています。主要メンバーが良い人たちばかりなので、いつも活動が楽しみです。

グリーンバード徳島の魅力は参加者とのコミュニケーションが生まれるところです。最近ではおそうじルート沿いのお店の宣伝なども取り入れていて、ゴミ拾いをしながら地域に関わっているというのも素敵なことだと感じています。

これからやってみたいこと

グリーンバードの活動にこれからも参加していきたいです。4月末のイベントで知った団体の人たちもグリーンバードのゴミ拾い活動によく参加していて、一緒にお話をさせていただく機会があり、興味が前以上に湧いてきています。新町カウントダウンや佐那河内で活動するFroSt(フロスト)などの活動にも今後ぜひ参加してみたいです。こうやって楽しい先輩たちに出会えて感謝しています。

また一方で個人的な夢として、大学生のうちに長期休暇を利用して自転車の旅をしたいと思っています。周りの先輩方にも話を伺いながら、近いうち実現させたいです。



今回紹介したイベント

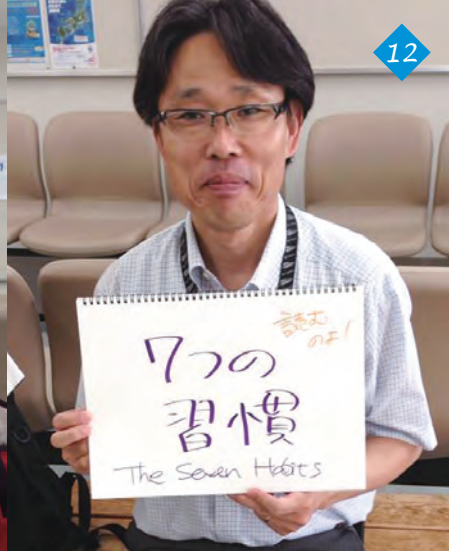
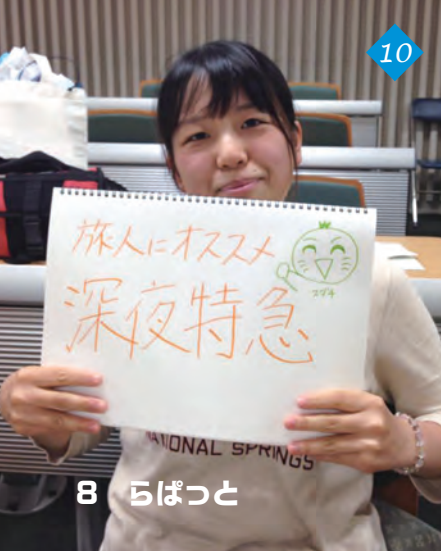
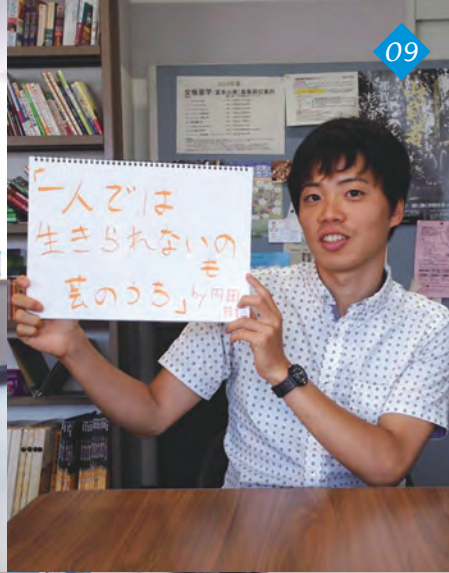
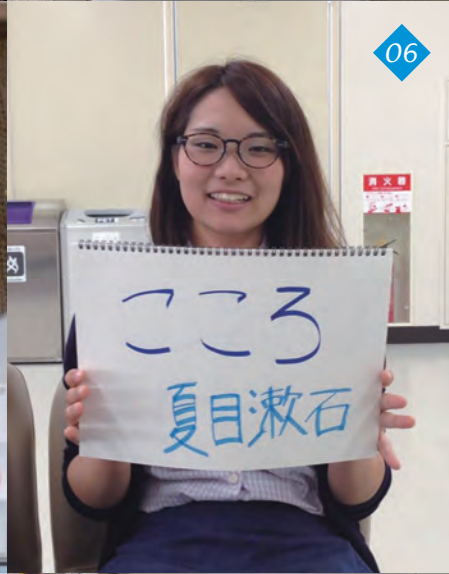
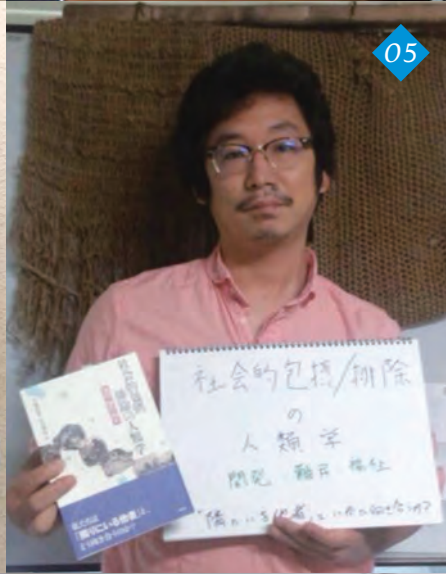
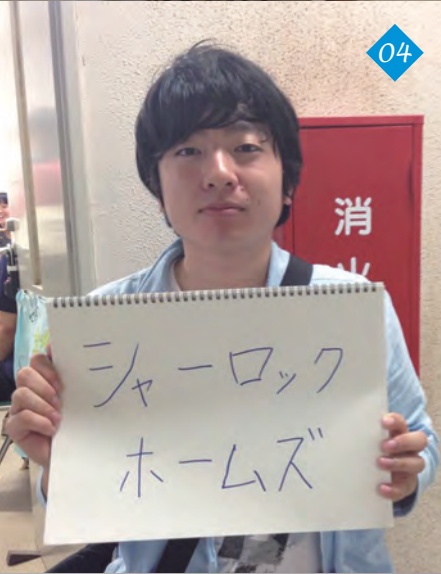
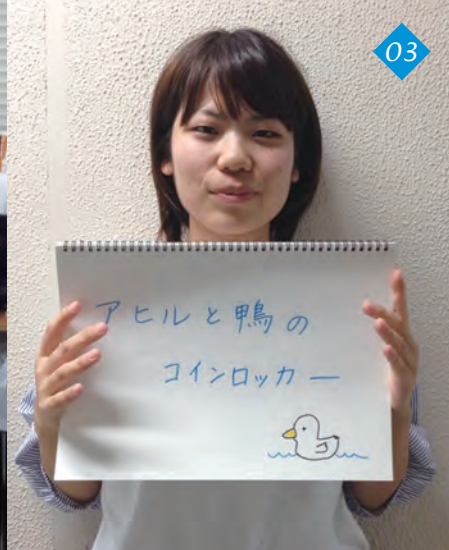
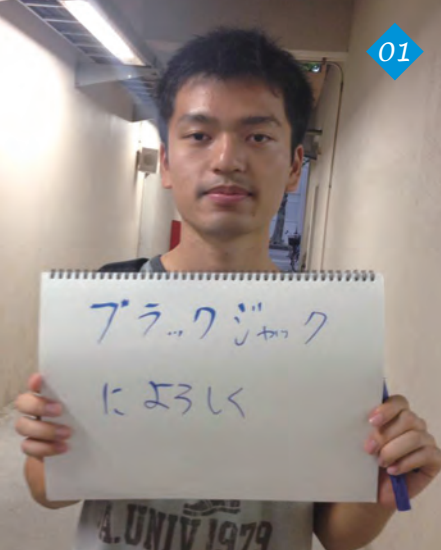
「グリーンバード徳島」

2003年に東京・原宿表参道にて「きれいな街は、人のこころもきれいにする」をコンセプトにNPO法人greenbirdが誕生。徳島では昨年7月にチームが生まれた。“KEEP CLEAN. KEEP GREEN”を合言葉に、若者たちが中心となって県内を楽しく飛び回る。毎週末に徳島駅や新町川沿いを中心におそうじ活動を実施。活動場所は蔵本駅周辺などエリアを広げつつある。季節ごとにその時期ならではのイベントおそうじ活動も取り入れている。

あなたの オススメの本は？

絵本であったり専門書であったり…人にオススメしたい本はその人にとって特別な本です。読書を通して得るものはたくさんあります。最近本を読んでいない方、読書をはじめてみませんか？

徳大生の声



らぱとどーく!

長尾 亮太

徳島大学総合科学部 3年、きっかけバス二期代表 (5月~)

徳島での防災意識の向上と、東北の復興支援を主な活動とする。(以下N)



金子 正憲

徳島大学医学科 6年、TICO YOUTH 元代表

気軽なところから国際協力を始めて、徳島から国際協力を発信できる場にしたいと考えている。(以下K)



学内向け情報誌「らぱとどーく」がお届けする熱い学生同士の対談イベントここに開催!!

この「らぱとどーく」は、それぞれ何かしらの夢や目標をもって活動している徳大生同士に対談してもらい、熱い思いをぶつけ合ってもらおう企画である。

これを読んだ人が少しでも多く、自分の中に熱い何かを見つけることが出来れば……!

■ボランティアを始めたきっかけは?

K: 僕はボランティアだとは思っていませんが、趣味が海外一人旅で夢が国際協力で、結果的にそうなっているかもしれないけど、**ただ、夢に向かってやっただけ**ですね。

N: どうしてその夢を持ち始めたんですか?

K: テレビでのドキュメンタリーだったり、ある中学校の教科書でそのテーマが取り上げられていたりして、そこから興味を持ち始めて。こんな大きな経験がありました! っってわけではなかったね。

N: 僕は、ボランティアには興味があつたけど、全然活動とかしていなくて、友達と東北にボランティア行きたくなって話はしていました。その時、きっかけバスというプロジェクトに出会い、そこで東北に行つて、その現状を知つて、**東北のために何かしたい、そして、徳島がそうならないように徳島で防災をやつていきたい**という気持ちになりました。

なぜ東北、海外に目を向け活動するようになったのですか?

N: 僕は海外に対して、遠いし、旅行に行くとも思わないし、英語もそん

なに出来ないし……ってビビっている部分があるんです。でもそれで東日本大震災を選んだんじゃないかと、テレビとかで現状を見ていたら**もたつてもいられなくなる自分がどつかにおつたから、体が動きまわりました**。きっかけバスは動く勇気を引き出してくれました。

K: 僕は、東日本大震災の映像を見て、そこに行く勇気は無かつたですね。でも、海外には好きで行つとつたから、現在こういう活動を身近でしているつだけ、僕もきっかけがあれば東北に行けたのかなあと思っています。

N: どうして一人で海外に行くんですか?

K: **自分は旅つて言いたいから。二人で行くと旅行になると思つて**ね。お互いが妥協してしまうし、新しい出会いが向こうであるから、もうそれが自分のスタイルになつているね。

N: 僕は、一人で行けたら行きたいんですけど、ちよつと勇気がなくて、きっかけバスも友達と一緒に応募して、他のボランティアにも、友達と一緒に感じて。前の自分やつたら**こういうことに参加せずに終わつていた**と思うんですけれどね。

K: 僕も、旅行で東北に行くのかなと思つているんですけど、持つていくと良い物とかある?

N: 何か持つていったら喜ばれるとは思いますが、別に持つていかなくても、県外から来たとか、旅行つてだけでも喜んでくれるんで、**とりあえず行け!**って感じですかね。

大学生にもできること、経験を通して自分たちが今すべきことは何だと思えますか?

N: 東北の被災者の方は忘れられることを恐れているので、今できることは**「小さいことでもいいから何かする」**。旅行して楽しいつて伝えるとか、Facebookに東北の情報が載つていたら見るとか。**他人事ではなく自分事として考える**ことが大事だと思います。

K: 「風が吹けば桶屋が儲かる」つてあるじゃないですか。それが僕のきっかけで、**少しの事でもやつていった方がいい**と思つています。桶屋が儲かるつていうのが大きい目的やしたら、**風ぐらい吹かしてみたい**なつて思つて、そこからこの活動をするに至つたんです。だから何が出来るかつていうのは、**綺麗事ですけど、笑顔、みたいな**。これは僕が好きなたーマで、これで何でもできると思つています。自分がすべき事は、海外に行き続けることとか、僕のこの**夢に向かつての気持ち**を腐らさんようにすることかなと思つています。そのために、色んな刺激をもらおう。まずは**自分が夢を追つて**ることを忘れへんことですね。

■ボランティアをどのような考えで行つていますか?

K: 僕は、**自己満でいい**と思つています。でも、社会人になつて、そういうのを仕事にしますつてなつたらそうは言えないんですよね。どうですか、東北でボランティアしてる人は?

N: ボランティアつて、人のためにや

るだけじゃなくて、自分のためでもあ
ると思ってるんですよね。さつき笑
顔って言われてましたけど、ボラン
ティアをすると、された側は笑顔に
なってくれるじゃないですか。それだ
けでいいと思うんですよ。それを批判
してる人は、勝手に批判しとけ、行動
してから言えって思ってます。

ボランティアは自己犠牲と言われま
すがどう思いますか？

N：僕は犠牲と考えることがなくて、
それを楽しんでいて、楽しめんくなっ
たら終わりやと思ってるんです。自分
を犠牲にしてつてなると辛いと思うん
で、楽しむことを考えてます。

K：僕は、勉強が犠牲になつてる部分
があるんちゃうかと今思つて（笑）で
もやっぱり、選択しとんで、犠牲と
は思つてないですけどね。

被災地などの情報を伝えるだけでも
いいということが、例えば貧困など
で亡くなる人たちについては、遠い
国の知らない人たちだからしょうが
ないと感じますか？

K：そう言われると、いたたまれなく
なりますけどね。知ってる人つてなっ
たら何かするんだらうなとは思いま
すけどね。でも、考えるだけで止ま
つてるのは、独りよがりの自分が嫌
やからこそかもしれないって、今思
いましたね。

N：僕は海外に行ったことがない
つていうのもあると思うんですけど、
一人が何かをしたつて変わらな
い、つて

思つてしまうんですよ。やつぱり国
の体制とかも問題なのかなつて。これ
は難しいなつて。難しいなで終わ
つてしまふんが情けないんですけどね（笑）
K：そうですね。お金で言うたら僕
めつちや酒好きやし、酒やめてその分
回したらええんやろうとは思います
けど。まあ永遠の課題ですよ。けどそ
れは今この場で突きつけられて考える
ことができますというか：ありがたいご
ざいます（笑）

答えは出ないですか？

K：むずかしいですね。でも、もつと
身近に感じることであれば、真剣さ
は変わつてくるのかもしれないです
ね。

どこまで相手を理解できるか、どう
やつたら相手を理解できるかにつ
いて、東北と海外に行かれて差を感じ
たことはありますか？

N：東北に行つたら、みんな笑顔で、
逆にこちらがパワーをもらいますね。
ここが被災地つていうのを忘れさせ
るくらいなんで、むしろ今まで何もして
なかつた自分が恥ずかしいと思うぐら
い圧倒されることがありますね。

K：僕は行つた先での生活はできへん
なつて思つてるんですけど、僕が唯一
出来ることは、現地のローカルバスに
乗るとかですかね。近づけるとい
意味では、その行動なのかなと思つて
ます。取つて代われないですもんねえ。

N：東北に行くだけじゃなくて、や
つぱり伝えることが大切なことだと思
う

んで：
K：そうですね。僕も伝えることぐ
らしいしできないんでねえ…。

ボランティアのゴールつて何だと思
いますか？

K：僕は、全員ハッピーがゴールか
なつて。格差社会つていうのはどうし
てもあるんで、その人なりのハッピー
を目指すことになりますけどね。ただ、
戦争みたいな、それなりにハッピーに
暮らしたつた人がアンハッピーになる
出来事は減らしたいなとは思いますけ
どね。

N：東北のボランティアは、がれき撤
去のボランティアつてのはもうほとん
ど終わつとつて、あとは、心のケアの
ような soft の部分をどうケアしてい
かつてことが大事になつてますね。ボ
ランティアの数がなくなつたら、それ
はそれで終わりですが、本当の終わり
はないんかなつて思います。結局は、
みんなハッピーですかね。

K：国際協力の敷居を下げるとい
うか、例えば世界のどこかで震災があ
つた時の募金で、日本人一人が一円ず
つ出して一億円集まる社会づくりかな
と。そういうみんなの意識ができれば、
それはゴールなのかなあと。

お二人にとってボランティアとは？

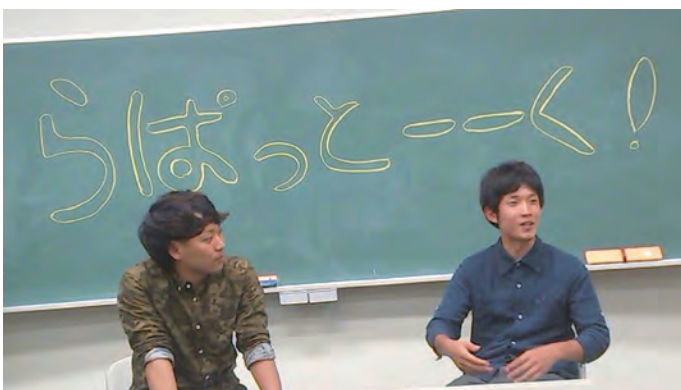
N：ボランティアとは思つて活動し
たことがないですけど、東北に行つて
ボランティアしたのは、他人のため
あつて自分のためでもある、つてこ
ろです。

K：そうですね、僕も似たようなもの
ですけど、される人もする側も、まあ、
簡単に言えばハッピーになる素敵な試
みですね（笑）

私はこれまで、ボランティアという
ものに興味がなく、正直偽善でしょ
（笑）なんて思つてそういつた人たち
を見ていた。

しかし、この対話を聞いて、こんな
にも考え、こんなにも熱い思いを持
つて活動している人たちがいることを知
り、ボランティアつていいな、と純粹
に思つた。

少しでも自分が身近にできる、例え
ば献血やゴミ拾いなどの身近なボラン
ティアを始めてみようと思つた。



防災の日

この日が制定されたことで全国各地で防災訓練が行われる日となっているんだよ!!

私もの知ん...!!

九月一日...

えっと... 避難訓練する日... だよな? そう!

「防災の日」って知ってる?

九月一日は防災の日と言って、一九二三年九月一日に起こった関東大震災にちなんであるんだよ!!

マメチシキ!

大学生はただの休みの日だね

気付いたオシ!!

それは言わない約束でお願いします

- ③
- ①
- ④
- ②

らぱっと公式 Facebook ページ

みなさま、いいね! お願いします (^o^)

らぱっとの Facebook ページ「ぱぱっとらぱっと」では、大学生の課外活動に関連するイベントを「ぱぱっと」配信していきます♪ 「ぱぱっとらぱっと」は各団体の方にも更新していただきたいです。投稿してほしい内容等ありましたら連絡ください!

検索お願いします!

<https://www.facebook.com/papatto.rapatto>

らぱっと編集部って何?

『らぱっと』は、インドネシア語で『出逢い』を意味しています。この情報誌を通じて活動と出逢い、興味を持ったら参加・実践し、そこに楽しみを見出す学生を増やす事を目標としています。徳島の大学生に「おもしろい!」っていう気持ちができるような内容盛りだくさんの情報誌を目指しますので、皆さん気軽に手に取り、ご愛読ください。

問い合わせ先

らぱっと編集局
〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1
徳島大学共通教育6号館2階
連絡先 Tel : 088-656-9865
E-mail : rapat.edit@gmail.com

<発行>らぱっと編集部 <発行年月>2015年1月
<編集>編集長: コーイチ、副編集長: こうめい
表紙: コーイチ 特集: きっかけバスー同
徳大生紹介: ベケ ボランティア体験: とんちゃん
徳大生の声: りんさや らぱっとーく!! : コーイチ
キャンパスライフ漫画: りこぴん
ぱぱっとらぱっと: さとじゅん
サポーター: ひろし